

広島県史年表（考古）

旧石器時代前期

B. C200 万年頃

地球上に最初の人類アウストラロピテクス(猿人)が出現する(アフリカ南部～東部)。
約 200 万年前から約 1 万年前までの間、厳しい寒さの氷河期と暖かい間氷期がくり返される。

B. C50 万年頃

アジア・ヨーロッパ・アフリカなどに原人が生息する〔中国の北京原人・ドイツのハイデルベルグ人・南アフリカのパラントロプス人など〕。
中国の北京原人は火を使用し、言葉を話す。

B. C15 万年頃

リス氷河期に海面が低下。日本が大陸と陸続きになり、大陸からナウマンゾウやオオツノジカなどの大型獣が移ってくる。
この頃、日本に牛川人などの旧人が住み始める〔愛知県牛川〕。

B. C5 万年頃

リス-ヴェルム間氷期に海面が上昇して、日本が大陸から離れる。
握斧など、石核や分厚い剥片から作られた打製石器が使われる〔群馬県岩宿遺跡〕。

旧石器時代後期

B. C3 万年頃

ヨーロッパのクロマニヨン人や中国の周口店山頂洞人など、各地で新人が生息する。
ヴェルム氷河期に海面が低下して、日本は再び大陸と陸続きになる。ナウマンゾウやオオツノジカなどとともに、人類が大陸から移動。
日本各地の丘陵や台地で人類が生活する。縦長剥片から作られた刃器や、横剥ぎの翼状剥片から作られたナイフ形石器が使用される〔岡山県鷲羽山遺跡〕。
広島県でも北部を中心に旧石器時代の人々が生活する。
住居には台地や石灰岩の洞窟・岩陰を選び、食料には動物を狩猟したり、木の実・草の根を採集。道具は流紋岩や安山岩・黒曜石など火山系の石で作った打製石器を使用する。

- 大朝町地宗寺遺跡—石錐(I-2)・ナイフ形石器(I-6)やスクレイパー(I-3)などの石器と剥片が出土。

- 神石町帝釈観音堂洞窟遺跡—第 24～26 層から加工痕のある獣骨やヒョウ・ゾウ科など日本では絶滅した動物の化石骨が出土。
- 三次市下本谷遺跡—石核石器や剥片石器 (I-1) など百数十点が出土。
- 吉和村冠遺跡群—下層から冠山産の安山岩で作ったナイフ形石器 (I-7) や舟底形石器 (I-4) などが多数出土。

B. C2 万年頃

始良カルデラ(鹿児島県)や三瓶山(島根県)などの火山活動が活発となり、広島県域にも火山灰が大量に降下する。

B. C1 万 3000 年頃

槍形の石器(尖頭器)が使用される。

- 吉和村冠遺跡群—上層から安山岩製の尖頭器が (I-9) 出土。
氷河が溶けて海面が上昇。朝鮮海峡と津軽海峡ができ、日本の大部分は大陸から分離する。
- 東城町帝釈馬渡岩陰遺跡—安山岩製の小型石器やオオツノジカの化石骨が出土。

B. C1 万 1000 年頃

細石刃などを木や骨などの軸にいくつも植えこんで用いた組合式の利器(細石器) (I-10) が使用される。

- 新市町宮脇遺跡・芸北町樽床遺跡—細石器多数が出土。
縄文時代早創期にかけて、投槍に使われたとみられる有茎尖頭器が作られる。
- 東広島市阿原遺跡・東城町戸宇牛川岩陰遺跡・三次市下本谷遺跡など—黒曜石・安山岩製の有茎尖頭器 (I-11) が出土。

縄文時代草創期

B. C1 万年頃

土器が発明される。最古の土器は平底や丸底の深鉢形で、豆粒文や隆線紋 (II-1)・爪形文などの文様をもつ。弓矢の使用が始まり、石鏃が作られる。打製石器に加えて、磨製石器が使用される [長崎県泉福寺洞窟遺跡・福井洞窟遺跡・愛媛県上黒岩岩陰遺跡]。

- 東城町帝釈馬渡岩陰遺跡—第 4 層から有茎尖頭器 (I-12) や石鏃 (I-14)・繊維混入の無文平底深鉢形土器 (II-4)・オオツノジカの骨・カワシンジュガイなどが出土。
- 神石町帝釈観音堂洞窟遺跡—第 21・22 層から石鏃や無文土器が出土。

B. C7491±400 年 (C14 推定年代)

貝塚が営まれ、釣針による漁撈が始まる [神奈川県夏島貝塚]。

大型獣がいなくなり、シカやイノシシ・ウサギなどの中・小動物が増える。
狩猟や漁撈、木の実の採集などが共同でおこなわれ、獲物は分け合った。

縄文時代早期

西日本を中心に尖底の押型文土器が流行する。押型文土器は、連続刺突文や特殊菱形文の施された神宮寺式土器〔大阪府神宮寺遺跡〕から、山形や楕円文の黄島式土器〔岡山県黄島貝塚〕、さらに粗大な楕円文の高山寺式土器〔和歌山県高山寺貝塚〕へと推移する。

B. C6443±350 年(C14 推定年代)

岡山県黄島貝塚

海面の上昇により、瀬戸内海ができる。ヤマトシジミ(半淡水産)の貝塚がハイガイ・マガキ(海水産)の貝塚に変化する〔岡山県黄島貝塚〕

広島県域で、押型文土器やえぐりの深い鋳形石鏃の使用が増加する。

県南部では海岸に近い台地や丘陵に、三次盆地では丘陵上に竪穴式住居が作られ、帝釈峡一帯では岩陰や洞窟を住居とする。

- 東城町帝釈馬渡岩陰遺跡一第 3 層下部から黄島式土器、第 3 層上部から高山寺式土器や石鏃などが出土。
- 神石町帝釈観音堂洞窟遺跡一第 20 層から黄島式土器、19 層から高山寺式土器や石鏃・埋葬された成人骨・幼児骨などが出土、成人骨の歯は非常に磨滅している。
- 豊松村豊松堂面洞窟遺跡一第 12 層から黄島式土器や高山寺式土器・石鏃などが出土。
- 新市町脇脇遺跡一撚糸文土器や黄島式土器・無文厚手土器・石鏃などが出土。
- 広島市早稲田山遺跡一撚糸文土器や黄島式土器(Ⅱ-5)・無文厚手土器・条痕文土器・石鏃・石槍(I-13)などが出土。
- 三原市時貞遺跡一黄島式土器や無文厚手土器・スクレイパーなどが出土。
- 五日市町利松住吉遺跡一黄島式土器や無文厚手土器・石鏃・スクレイパーなどが出土。
- 高野町建釜遺跡一高山寺式土器(Ⅱ-6)や無文厚手土器などが出土。
- 三次市松ヶ迫 A・B・C・F 地点遺跡一高山寺式土器や石鏃などが出土し、B 地点から長径 2.75m の楕円形の竪穴式住居跡が検出される。
- 東城町帝釈寄倉岩陰遺跡一第 13 層から高山寺式土器が出土。
- 佐伯町友和専念寺遺跡一高山寺式土器が出土。

瀬戸内海周辺の遺跡が減少。帝釈峡一帯の岩陰や洞窟に居住していた人々は、胎土に繊維の入った条痕文や縄文・斜格子状沈線文をめぐる厚手の土器を使用する。

- 東城町帝釈寄倉岩陰遺跡一第 11・12 層から繊維混入の土器が出土。
- 神石町帝釈観音堂洞窟遺跡一第 14～18 層から繊維混入の土器(Ⅱ-7)や貝輪・骨製有孔垂飾品・骨針・石鏃などが出土。

- 豊松村豊松堂面洞窟遺跡一第 9・10・11 層から繊維混入の土器や牙製品・石鏃などが出土。

石器の種類が増え、中国地方では石材に姫島産(大分県)や隠岐産(島根県)の黒曜石、金山産(香川県)の安山岩などが使用される。

貝輪や牙製・石製の玉類、骨製針などが全国各地で使用される〔茨城県花輪台貝塚・滋賀県石山貝塚〕。

広島県域で釣針や網による漁撈がおこなわれる。

- 神石町帝釈観音堂洞窟遺跡一第 17 層から鹿角製の釣針が出土。

B. C4500 年頃

九州南方の鬼界カルデラが噴火、広島県域にもアカホヤ火山灰が降下する。

縄文時代前期

B. C4000 年頃

貝殻条痕と爪形文様がめぐる丸底の羽島下層式土器〔岡山県羽島貝塚〕が流行する。

- 神石町帝釈観音堂洞窟遺跡一第 12・13 層から羽島下層式土器が出土。
- 東城町帝釈馬渡岩陰遺跡一第 2 層から羽島下層式土器(Ⅱ-8)が出土。
- 東城町帝釈寄倉岩陰遺跡一第 9 層下部と 10 層から羽島下層式土器が出土。
- 豊松村豊松堂面洞窟遺跡一第 7・8 層から羽島下層式土器やくぼみ石・石鏃などが出土。
- 尾道市大田貝塚一羽島下層式土器や石鏃・人骨などが出土。

縄文と爪形文様がめぐる薄手平底の磯ノ森式土器(Ⅱ-9)〔岡山県磯ノ森貝塚〕が流行する。

- 東城町帝釈馬渡岩陰遺跡一第 2 層から磯ノ森式土器・石錘・くぼみ石・貝輪・スクレイパー・石鏃などが出土。
- 神石町帝釈観音堂洞窟遺跡一第 12 層から磯ノ森式土器・玦状耳飾などが出土。

丸木舟が発達する〔福井県鳥浜貝塚〕。

縄文地に突帯文をもつ彦崎Ⅱ式土器〔岡山県彦崎貝塚〕や田井式土器〔同田井遺跡〕が盛行する。

- 東城町帝釈馬渡岩陰遺跡一第 1 層から田井式土器や貝輪・石錘・石鏃などが出土。
- 東城町帝釈寄倉岩陰遺跡一第 8 層下部から田井式土器や彦崎Ⅱ式土器が出土。
- 福山市大門貝塚一田井式土器や石錘などが出土。

縄文時代中期

B. C3000 年頃

立体的で装飾性の強い土器が多く使用される。

広島県域では、かたい繊維の縄文地に爪形のついた突帯文をめぐらした船元式土器(Ⅱ-12)〔岡山県船元貝塚〕から、縄文や撚糸文を地文とし、曲線的な沈線文が施された里木Ⅱ式土器〔岡山県里木貝塚〕、縄文の全くない沈線文様の福田C式土器〔岡山県福田貝塚〕への推移がみられる。

- 東城町帝釈寄倉岩陰遺跡一第7・8層から船元式土器や里木Ⅱ式土器(Ⅱ-13)が出土。
- 廿日市町地御前南遺跡一船元式土器が出土。
- 福山市下迫貝塚一下層から里木Ⅱ式土器や腰みのをつけた女性の土偶などが出土。
- 福山市馬取遺跡一里木Ⅱ式土器や福田C《中期》式類似土器(Ⅱ-14・15)などが出土。
- 福山市木之庄貝塚一里木Ⅱ式土器などが出土。

縄文時代後期

B. C2000年頃

関東地方では、大環状貝塚が形成される〔千葉県加曽利貝塚・同堀之内貝塚〕。中国地方でも貝塚の規模が大きくなる〔岡山県中津貝塚〕。

全国で抜歯が流行する〔愛知県吉胡貝塚・岡山県津雲貝塚〕。

広島県域では、沈線で囲んだ内側の縄文を残し、外側の縄文を磨消する中津式土器〔中津貝塚〕や、三本沈線による曲線的な文様をめぐらす福田K《後期》Ⅱ式土器〔福田貝塚〕などの磨消縄文土器が盛行する。

土器の形に深鉢形と浅鉢形の分化があらわれる。

土偶・土板・石棒などの呪術的器物が盛行する〔中津貝塚・山口県岩田遺跡〕。

土器底部に穴が多数あけられた多孔底土器が使用される〔新潟県塔ヶ峰遺跡・香川県神子ヶ浜遺跡〕。

- 福山市洗谷貝塚一中津式土器(Ⅱ-16)・福田KⅡ式土器(Ⅱ-17)や石鏃・スクレイパー・石錘・石槍・貝輪・釣針・多孔底土器などが出土。
- 福山市木之庄貝塚一中津式土器や多孔底土器などが出土。
- 尾道市大田貝塚一中津式土器や多孔底土器などが出土。
- 三原市大串遺跡一中津式土器やスクレイパーが出土。
- 新市町芋平遺跡一中津式土器や福田KⅡ式土器・磨製石斧・石鏃・石錘などが出土。
- 甲山町頓迫遺跡一中津式土器や福田KⅡ式土器・石鏃・磨製石斧・敲石などが出土。

B. C1700年

中国で殷王朝が成立する。

広島県域では、口縁部を厚くして曲線的な文様を集中させた縁帯文の津雲A式土器〔津雲貝塚〕や幾何学的な縁帯文をもつ彦崎KI式土器〔彦崎貝塚〕、口唇部をふくらませて縄文を施した彦崎KⅡ式土器が流行する。

- 広島市比治山貝塚—津雲 A 式土器や石鏃・石錘などが出土。
- 呉市芦冠遺跡—板状土偶が出土。
- 東城町帝釈寄倉岩陰遺跡—第 3～6 層から中津式土器や彦崎 KI 式土器・彦崎 KII 式土器・福田 KIII 式土器〔福田貝塚〕、彫刻のある石剣柄頭などが出土。彦崎 KI 式・同 II 式土器などに伴って、改葬された人骨約 50 体分が出土。人骨には抜歯のみとめられるものや赤色顔料の付着するものもある。

西日本の縄文式土器から縄目文様が消滅する。食物を盛る黒色磨研の精製浅鉢形土器と煮沸専用の粗製深鉢形土器の使い分けがおこなわれる。精製土器には凹線文がめぐらされ、丹塗りのものもみられる。広島県域ではこれらの特徴をそなえた馬取式土器〔広島県馬取遺跡〕が流行する。

- 福山市馬取遺跡—馬取式土器(II-18)や石鏃・スクレイパー(I-17)などが出土。
- 神辺町神辺御領遺跡—楕円形の竪穴式住居跡が検出され、馬取式土器や打製石斧(I-20)・石鏃・スクレイパーなどが出土。この遺跡は平地に立地し、土掘具と考えられる打製石斧 9 点が出土しているところから、原始農耕がおこなわれていた可能性も考えられる。

B. C1050 年

中国に西周王朝が成立し、都を西安におく。
関東地方で土器製塩が始まる〔茨城県広畑貝塚〕。

縄文時代晩期

B. C300 年頃

東日本では複雑華麗な器形や文様をもつ亀ヶ岡式土器〔青森県亀ヶ岡遺跡〕や安行Ⅲ式土器〔埼玉県安行貝塚〕などが、西日本では文様のきわめて少ない御領式土器〔熊本県御領貝塚〕や滋賀里式土器〔滋賀県滋賀里遺跡〕などが使われる。広島県域ではへら描き沈線文のある黒色磨研の精製土器に貝殻条痕の著しい粗製土器が伴う貝持式土器(型式名未定)〔広島県貝持貝塚〕や黒土 BI 式土器〔岡山県黒土遺跡〕が使用される。

ドングリなどの木の実を貯蔵する竪穴が作られる〔山口県岩田遺跡・岡山県前池遺跡〕。

- 三原市貝持貝塚—貝持式土器(II-19)や石鏃・貝輪などが出土。
- 三原市岩鼻下遺跡—貝持式土器や石鏃・石斧などが出土。
- 広島市中山貝塚—貝層下から突帯をめぐらす有文土器や無文の精製土器が出土。
- 因島市大浜遺跡—黒土 B《晩期》Ⅰ式土器や石鏃・スクレイパー・土偶などが出土。

広島県域で突帯に刻目を施した前池式土器〔岡山県前池遺跡〕や黒土 BII 式土器〔黒土遺跡〕が使用される。

大陸から米が伝わる。

- 新市町神谷川遺跡—前池式土器や黒土BⅡ式土器が出土。
- 東城町帝釈寄倉岩陰遺跡—第2層から前池式土器(Ⅱ-21)や黒土BⅡ式土器(Ⅱ-20)が出土。
- 東城町帝釈名越岩陰遺跡—柱穴列が検出され、第4層からモミ痕のついた黒土BⅡ式土器の底部が出土。

弥生時代前期

B. C300 年頃

朝鮮半島から水稻農耕や鉄器・青銅器・大陸系の磨製石器(稲穂摘みをする磨製石庖丁・木材を加工する片刃石斧・磨製石鏃など)・機織りの技術などが伝わり、壺形土器・甕形土器など、用途に応じたさまざまな形の弥生土器が作られ、北九州に弥生文化が成立。

縄文時代の伝統をひく石器が引き続いて使われる。

弥生文化は、急速に中国・四国・近畿地方に伝わる。

低湿地の水田に接する丘陵や微高地に竪穴式住居や穀物を納める高床倉庫などが建てられ、西日本では濠をめぐらした集落も営まれる〔福岡県板付遺跡・山口県綾羅木遺跡・奈良県唐古遺跡〕。

埋葬には箱式石棺や甕棺などが使用される。

広島地域の弥生前期の土器は、へら描きの木葉文や重弧文、1~4条のへら描き沈線文がめぐらされる前半の中山Ⅰ式・亀山下層Ⅰ式から、5~10条のへら描き沈線文のある後半の中山Ⅱ式・亀山下層Ⅱ式へと推移する。

- 広島市中山貝塚—第2貝層から中山Ⅰ式上器(Ⅲ-1・2)、第3貝層から中山Ⅱ式土器(Ⅲ-4・5・6)や磨製石斧・磨製石庖丁・磨製石鏃・貝輪・骨製指輪などが出土。
- 神辺町亀山遺跡—亀山下層Ⅰ式土器や亀山下層Ⅱ式土器、モミ痕のついた土器底部、石鏃・磨製石庖丁などが出土。
- 三次市高峰遺跡—円形の竪穴式住居跡から中山Ⅰ式土器や石鏃が出土。
- 大朝町横路遺跡—円形の竪穴式住居跡・貯蔵穴・石器工房跡などが検出され、中山Ⅰ式から中山Ⅱ式に移行する時期の土器が出土。

B. C221 年

秦の始皇帝が初めて中国を統一する。

木製の農耕具が作られる〔唐古遺跡・大阪府瓜破遺跡〕。

- 神辺町大宮遺跡—弧状をなす大溝が検出され、大宮SD001下層式土器(型式名未定)(Ⅲ-3)や磨製石庖丁(I-27)・磨製石斧・石槍(I-23)・スクレイパー(I-26)・石錐(I-24・25)などが出土。

- 福山市ザブ遺跡—中山Ⅱ式土器や石鏃・磨製石庖丁などが出土。
- 三原市下垣内遺跡—中山Ⅱ式土器や磨製石庖丁・磨製石斧などが出土。
- 千代田町塚迫遺跡群—中山Ⅱ式の土器棺墓6基と土壙墓8基が検出される。
- 三次市高平遺跡—土壙を埋葬施設とする積石墳墓から中山Ⅱ式土器が出土。
- 高野町建釜遺跡—中山Ⅱ式土器や石鏃・磨製石斧などが出土。

弥生時代中期

B. C100 年頃

土器に地域性があらわれる。九州地方は無文化し、近畿・中国・四国地方は櫛描き文土器が盛行する。櫛描き文は回転台を使用したものが多い。

広島県域の中期の櫛描き文は、前半の中山Ⅲ式土器と中葉の中山Ⅳ式土器に分類される。北九州地域で甕棺墓が流行し、中国製の鏡や朝鮮製の銅剣類を副葬するものが現われる〔福岡県須玖遺跡〕。

北九州地域で銅剣・銅銚・銅戈などが、近畿地域で銅鐸の製作が始まる。これらの青銅器は共同体の祭祀に使われたものと推測される。

- 広島市中山貝塚—第4・5貝層から中山Ⅲ式(Ⅲ-7)・同Ⅳ式土器(Ⅲ-8)が出土。
- 福山市草木遺跡—中山Ⅲ式土器が出土。
- 神辺町亀山遺跡—亀山上層式土器が出土。

紀元前後頃

楽浪の海中に倭人(日本人)が百余りの国に分かれて住み、その一部は漢の楽浪郡と交渉する〔漢書地理志〕。

8 年

王莽が中国に新王朝をたてる。

25 年

劉秀が漢王朝を復興する《後漢王朝の開始》。

- 世羅町良(うしとら)遺跡—良式土器(型式名未定)(Ⅲ-9)が出土。

集落の規模が大きくなる。

- 福山市池ノ内遺跡群—円形や方形・隅丸方形の竪穴式住居跡33基、方形の掘立柱建物跡1基、土壙5基などが検出され、中山Ⅳ式土器や石鏃・磨製石庖丁などが出土。

57 年

倭の奴国王、後漢に朝貢し、光武帝から印綬を賜わる〔後漢書東夷伝〕。

祭祀がおこなわれたあと青銅器が埋められる。巨石が原始祭祀の場になっていることが多い。

- 広島市福田木の宗山遺跡—巨石の下から横帯文銅鐸や細形銅剣・中広形銅戈・弥生式土器が出土。
- 世羅西町黒川遺跡—大石の下から袈裟櫛文銅鐸が出土し、畿内文化との関連を知ることができる。
- 尾道市大峰山遺跡—大石の下から細形銅剣と中細形銅鉞が出土。

北九州地域で実用の鉄製武器が作られる〔須玖遺跡〕。

地域的な小政治集団が成立する。

軍事的性格をもつと考えられる高地性集落が営まれる〔香川県紫雲出山遺跡〕。

広島県北部を中心に凹線文の著しい塩町式土器(Ⅲ-10)〔広島県塩町遺跡〕が盛行する。

シカなどを描いた絵画土器が作られる。

- 福山市地藏堂遺跡—第6号竪穴式住居跡からシカを描いた土器が出土。
- 双三郡三和町矢原遺跡—脚の裾部にシカなどを描いた脚付鉢形土器が出土。
- 高宮町新迫南遺跡—第2号溝からシカを描いた壺形土器が出土。

中国・四国地方で、祭祀遺物あるいは呪符とみられる分銅形土製品が使用される〔岡山県新邸貝塚・香川県我拝寺山遺跡〕。

- 福山市市坊谷遺跡—竪穴住居跡15基や土壇・溝などが検出され、分銅形土製品や磨製石庖丁・砥石などが出土。
- 三次市塩町遺跡—竪穴式住居跡10軒分が検出され、塩町式土器や磨製石斧・磨製石庖丁・分銅形土製品などが出土。

貼石で囲まれた墳墓がつくられる。

- 三次市四拾貫小原土壇墓群—石列と土壇墓7基が検出され、塩町式土器が出土。
- 三次市岩脇墳墓群—河原石または角礫を用いた方形の墓域が四区画以上あり、その中に箱式石棺が数基ずつ存在。
- 三次市宗祐池西遺跡—周囲を貼石によって区画した方形墓で、隅が突出している。埋葬主体は土壇3基が検出され、供献に用いられたとみられる塩町式土器が溝から出土。

スタンプ文の土器が作られる。

- 東城町戸宇大仙山遺跡—土壇墓群が検出され、 のスタンプ文を施す脚付鉢形土器が出土。
- 東広島市藤が迫墳墓群—5基の土壇墓が検出され、5号墓から打製石鏃が出土。
- 三次市花園墳墓群—弥生中期頃から古墳時代にわたる墳墓群。弥生時代には、墓域の周辺を溝や貼石・列石で区画した方形台状墓2基がつくられている。1号墓域内からは215基以上の箱式石棺・石蓋土壇・土壇・配石墓などが確認されている。

瀬戸内海周辺で土器製塩が始まる〔岡山県池尻遺跡〕。

弥生時代後期

107年 後漢・永初1

倭国王帥升ら、後漢に入貢し、生口(奴隸)160人を献じる〔後漢書東夷傳〕。

土器の文様が口縁部に集中し、無文化をたどる。後期の上器は、広島地域の東部と西部で器形や文様に相違がみられる。東部の前半には上東式土器〔岡山県上東遺跡〕、後半には神谷川式土器〔広島県神谷川遺跡〕が流行。西部の前半には上深川A式土器〔広島県上深川遺跡〕、後半には上深川B式土器が普及した。

鉄器の生産が増大し、石器が消滅してゆく〔静岡県登呂遺跡〕。

- 神辺町神辺御領遺跡—壺形(Ⅲ-11)や甕形・高坏形・器台形など上東式土器が多数出土。
- 神辺町備後国分寺遺跡—ピットや土器の入った土壙・溝などが検出され、上東式土器(Ⅲ-12)が出土。
- 新市町神谷川遺跡—竪穴式住居跡や貯蔵穴などが検出され、上東式土器・神谷川式土器(Ⅲ-14)が多数出土。
- 広島市上深川遺跡—上深川A式(Ⅲ-15)・同B式土器多数が出土。
- 東城町牛川遺跡—土壙墓5基が検出され、第4・5号土壙墓から特殊器台や特殊壺が出土。
- 庄原市田尻山方形墓—石列や貼石で墳丘を区画し、墳頂に木棺を安置した大型土壙と箱式石棺がある。供献された土器は石見地方の土器に酷似する。

銅鐸や銅剣・銅鉾などの青銅器が大型化し、瀬戸内地域で平形銅剣がつくられる。平形銅剣は祭祀のあと巨石の下などに埋められている。

- 広島市諸延八幡社遺跡—平形銅剣7点が出土。
- 福山市熊野遺跡—平形銅剣2点が出土。
- 沼隈町山南遺跡—巨石の付近から平形銅剣が出土。

180年

倭国大いに乱れ、攻伐続く。ついに倭の諸国卑弥呼を共立し、女王となす〔魏志倭人伝〕。

220～222年

後漢朝が滅び、魏・蜀・呉の三国時代が始まる。

239年 魏・景初3

6- 女王卑弥呼、大夫難升米らを帯方郡に遣わし、魏の明帝に朝貢を求める。郡太守劉夏、難升米らを魏都洛陽に送る。この時、卑弥呼、明帝に男生口4人、女生口6人、班布2匹2丈を贈る〔魏志倭人伝〕。

12- 明帝、卑弥呼を親魏倭王として、金印紫綬を与える。また、降地交竜錦5匹・5尺刀

2口・銅鏡100枚を賜う。難升米らにも、労をねぎらい、銀印青綬を与える〔魏志倭人伝〕。大阪府黄金塚古墳出土の画文帯神獸鏡や島根県神原神社古墳出土の三角縁神獸鏡に景初3年の紀年銘がある。

240年 魏・正始1

帯方郡大守弓遵、建中校尉梯僑らを遣わして、詔書・印綬を倭王にもたらし、錦・刀・鏡などを賜う。倭王、魏使に託して上表し、詔恩に答謝する〔魏志倭人伝〕。群馬県芝崎古墳・兵庫県森尾古墳出土の三角縁神獸鏡に正始元年の紀年銘がある。

卑弥呼が没し、径百余歩の冢(ちょう)を作り、奴婢百余人を殉葬する。

男王を立てるが國中服さず、誅殺しあい1,000余人が死ぬ。卑弥呼の宗女壹與を王に立て、國中が安定〔魏志倭人伝〕。

吉備地域を中心に、首長を埋葬した墳丘墓が造られる。

墳丘墓には埴輪の起源と考えられる特殊壺や特殊器台が供献される〔岡山県宮山遺跡・同楯築遺跡〕。

奈良盆地には大型首長墓が出現する〔奈良県纏向(まきむく)石塚遺跡〕。

広島湾岸を中心に、高地性集落が多くなる。高地性集落は貝塚を伴うものが多い。

- 広島市豊谷遺跡—標高110~120mの丘陵の尾根ぞいに竪穴式住居跡13基、貝塚3基などが検出され、土製勾玉や砥石・弥生後期の土器などが出土。
- 広島市西山貝塚—標高258mの山頂付近に竪穴式住居跡や貝塚が存在し、磨製石斧や石錘・巴形銅器・弥生後期の土器が出土。
- 広島市岩谷観音寺貝塚—標高350mの山頂に立地し、弥生後期の土器が出土。
- 本郷町新庄庵遺跡—標高140mの山頂や斜面に遺物包含地と貝塚が存在する。
- 本郷町横見遺跡—口縁部に波状文や鋸歯文をめぐらす安芸地域の土器と叩き目を有する畿内第5様式の土器が出土。
- 本郷町舟木遺跡—合口甕棺を河原石で覆った墳墓。
- 五日市町高井遺跡—合口甕棺が出土。
- 吉田町川本遺跡—合口壺棺が出土。

近畿地方では大量の銅鐸が一括埋納され、その後は銅鐸や銅劍類などの青銅製祭器が用いられなくなる〔滋賀県小篠原遺跡・兵庫県桜ヶ丘遺跡〕。

265年 西晋・泰始1

魏王朝が滅び西晋王朝おこる。

266年 西晋・泰始2

倭の女王壹與、使者を遣わし西晋に貢献する〔晋書武帝紀〕。

- 広島市真亀遺跡群—竪穴式住居跡や土壇・溝状遺構などが検出され、C地点第3号住居

跡からは小型の仿製鏡が出土。

古墳時代前期

300 年頃

出雲地域を中心に四隅突出型の方形墳墓が盛行する〔鳥取県阿弥大寺墳丘墓群・島根県仲仙寺古墳群〕。

畿内から瀬戸内海沿岸の各地に、画一的に巨大な墳丘をもつ首長墓=古墳が出現し、政治的統合と支配階級の成立をつげる。

古墳は自然地形を利用して高所に造られ、墳丘斜面は葺石で覆われる。墳形は、はじめ前方後円墳や前方後方墳がつくられ、続いて円墳や方墳が現われる。大和を中心とする畿内の前方後円墳は全長 200m を越すものがかなりある。埋葬施設は竪穴式石室に割竹形木棺を納めるものが多く、中国製の鏡をはじめ、鉄剣や銅鏃・短甲などの武器・武具類、鎌や斧などの鉄製農具類、玉類など豊富な副葬品がある〔奈良県箸墓古墳—前方後円墳・京都府椿井大塚山古墳—前方後円墳・岡山県車塚古墳—前方後方墳〕。土器は土師器が使用される。

316 年

西晋朝が滅び、五胡十六国時代始まる。

広島県北部地域には、弥生時代から引き続いて集団墓的・家族墓的様相の強い墳墓がつくられる。

- 三次市矢谷古墳—全長 18.5m の四隅突出型の前方後方形墓。墳丘裾には貼石や列石を施し、周囲に溝をめぐらして墓域を区画している。墳頂部には一辺 4m の大型土壇を中心に 11 基の埋葬施設がある。供献土器には吉備系の特殊壺・特殊器台や山陰系の土師器(IV-2・3)があり、吉備と出雲の両文化圏の影響がみられる。
- 広島市西願寺墳墓群—河原石積みの竪穴式石室や土壇墓・箱式石棺・壺棺墓などが検出される。

竪穴式住居が方形化する〔兵庫県大中遺跡〕。

350 年

大和王権による国家統一が進められる。

古墳の墳丘に円筒形・家形・楕形などの埴輪がめぐらされる〔奈良県佐味田宝塚古墳・同新山古墳〕。

太田川や芦田川下流域の丘陵上に、畿内型の古墳がつくられる。

その後県内各地に古墳が広まる。

- 広島市中小田 1 号古墳—全長約 30m の前方後円墳と推測される古墳で、竪穴式石室か

ら中国製の三角縁神獸鏡や禽獸鏡・鉄斧などが出土。この三角縁神獸鏡は京都府椿井大塚山古墳など最古式の古墳出土のものと同範。

- 新市町潮崎山古墳—全長約 30m の前方後円墳と推測される。中国製の三角縁神獸鏡や鉄斧が出土。

仿製の三角縁神獸鏡や碧玉製の腕飾類がつくられ、古墳に副葬される〔奈良県新山古墳・三重県石山古墳〕。

369 年

倭・百済の連合軍、新羅軍を破り、比自焔以下 7 国と比利以下 4 邑を平定〔書紀〕。

この頃、任那の日本府成立。東晋泰和 4 年の紀年銘を有する七支刀(奈良県石上神社蔵)がつくられる。

- 福山市石鎚山 1 号古墳—直径 20m の円墳で、2 基の竪穴式石室から中国製の二神二獸鏡や鉄剣・銅鏃などが出土。

391 年

倭国軍、渡海して百済・新羅軍を破る〔広開土王碑〕。

- 福山市池ノ内第 2 遺跡—土師器の壺棺 2 基が検出される。

古墳時代中期

400 年

高句麗の好太王、5 万の大軍を新羅に送り、倭国軍を破って追撃し、任那・加羅を攻略する〔広開土王碑〕。

- 広島市宇那木山 2 号古墳—前方後円墳の竪穴式石室から中国製の画文帯神獸鏡が出土。
- 本郷町鍛冶屋迫 4 号古墳—全長 21m の前方後円墳で、箱式石棺から中国製の画文帯神獸鏡が出土。
- 尾道市大田遺跡—溝状遺構から土師器(IV-4・5)や師楽式製塩土器などが出土。

414 年 東晋・義熙 10

高句麗に広開土王碑が建てられる。

- 福山市掛迫古墳—全長 46.5m の前方後円墳で、2 基の竪穴式石室から三角縁神獸鏡やだ竜鏡などが出土。
- 東広島市白鳥古墳—仿製の三角縁神獸鏡や鉄製素環頭太刀などが出土。
- 三次市岩脇古墳—直径 31m の円墳で、竪穴式石室を中心に小さな箱式石棺 4 基、石蓋土壇 1 基がつくられた家族墓。
- 広島市上小田古墳—面取りされた切石を用いた組合式石棺から、鉄剣や鉄斧などの鉄

製品が出土。

- 広島市地藏堂山1号古墳—1辺の長さ約17mの方墳と推定され、土壙から素環頭太刀や鉄斧・有孔円板などが出土。

420年 宋・永正1

宋王朝おこり，南北朝時代が始まる。

421年 宋・永正2

倭王讃，宋に朝貢する〔宋書倭人伝〕。

大型の古墳が奈良盆地から河内平野に移り，水をたたえた二重の周溝をめぐる巨大な古墳も造られる〔大阪府応神天皇陵古墳—全長430mの前方後円墳・同仁徳天皇陵古墳—全長486mの前方後円墳・同履中天皇陵古墳—全長360mの前方後円墳・岡山県造山古墳—全長350mの前方後円墳〕。

この頃，摂津国猪名県の佐伯部を安芸国淳田に移す〔書紀〕。

- 三原市宮ノ谷8号古墳—直径10mの円墳で，木棺から仿製の内行花文鏡や鉄剣などが出土。

滑石製模造品がつくられる〔京都府久津川古墳・奈良県宮山古墳〕。

戦闘用具が改良され桂甲がつくられる〔奈良県猫塚古墳・大阪府西小山古墳〕。

古墳に馬具の副葬が始まる〔大阪府丸山古墳・同鞍塚古墳〕。

鎌や鋤・鍬など鉄製農具が普及。全国的に農業生産力が増大する。

竪穴式住居に造りつけのカマドがつくられるようになる。製塩や製鉄などの社会的分業がすすむ。

- 神辺町亀山1号古墳—直径30mの円墳で，割竹形木棺を覆った粘土槨から短甲や鉄剣・鉄鉾・筒形銅器・刀子形の石製模造品・竹製の櫛・玉類などが出土。
- 尾道市黒崎山古墳—全長約70mの備後地域最大規模の前方後円墳。

朝鮮半島から伝えられた横穴式石室が九州地方でつくられるようになる〔福岡県丸隈山古墳・佐賀県横田下古墳〕。

朝鮮半島から渡来した技術者によって，大阪府南部の陶邑窯で須恵器の集中的な生産がはじまる。須恵器は，ろくろの使用と登窯による高温焼成という新技術によって作られる。

古墳の副葬品に金製品や金銅製品がみられるようになる〔熊本県江田船山古墳〕。

馬具が普及する〔大阪府長持山古墳・和歌山県大谷古墳〕。

438年 宋・元嘉15

これより先，倭王讃没し，弟珍立つ。珍，宋に貢献し，上表して除正されんことを求める〔宋書倭国伝〕。

4- 宋の文帝珍を安東將軍倭国王とする〔宋書文帝紀〕。

443年 宋・元嘉20

倭王済，使者を遣して奉獻し，安東將軍倭国王を授けられる〔宋書倭国伝〕。癸未年8月の紀年銘を有する人物画像鏡（和歌山県隅田八幡宮蔵）がつくられる。

三次盆地周辺の丘陵に多数の古墳がつくられる。

- 三次市西酒屋高塚古墳—全長46m，高さ7.5mの帆立貝式古墳で，2基の竪穴式石室から中国製の画文帯神獸鏡や鉄劍・玉類などが出土。この画文帯神獸鏡は，全国で22面の同範鏡が確認されている。
- 三次市糸井大塚古墳—全長65m，高さ10mの三次盆地最大の帆立貝式古墳で，周囲には幅20mの溝がめぐっている。
- 三次市畑原開山9号古墳—直径10mの円墳で，箱式石棺から仿製の内行花文鏡や滑石製琴柱形石製品などが出土。
- 三次市若宮古墳—全長35.8mの前方後円墳。
- 庄原市旧寺古墳—全長約62mの広島県北部地域最大規模の前方後円墳で，墳丘には葺石や円筒埴輪がめぐっている。
- 庄原市甲山古墳—全長約56mの前方後円墳。
- 庄原市瓢山古墳—全長36mの前方後円墳で，墳丘には葺石や埴輪がめぐっている。
- 東広島市スクモ塚古墳—直径40mの円墳で，方形の低い造り出しがある。
- 広島市三王原古墳—竪穴式石室から獸形鏡や鉄劍・鉄銚・甲冑などが出土。
- 三次市浄楽寺・七ツ塚古墳群—前方後円墳や帆立貝式古墳・円墳・方墳など173基からなる三次盆地最大規模の古墳群。

462年 宋・大明6

これより先，倭王済没し，世子興，使者を遣わし宋に貢獻する〔宋書倭国伝〕。

3- 宋の孝武帝，倭王興に安東將軍倭国王を授与〔宋書孝武帝紀〕。

- 三原市兜山古墳—直径45mの円墳で，方形の低い造り出しがある。
- 三次市四拾貫小原1号古墳—直径24mの円墳で，3基の埋葬施設から珠文鏡や鉄劍・そろばん玉などが出土し，墳丘から縄蓆文のついた漢式土器や須恵器が出土。
- 東広島市三ツ城古墳—全長84mの広島県最大規模の前方後円墳。3基の埋葬施設から珠文鏡や銅釧・鉄劍などが，造り出しから最古式の須恵器(V-1・3)が出土。墳丘の規模や形態からみて，安芸国造とその家族を埋葬した墳墓と推定される。
- 三次市四拾貫小原4号古墳—直径11.5mの円墳で，用溝から最古式の須恵器(V-2)が出土。

埼玉県稻荷山古墳から辛亥の銘のある鉄劍や画文帯神獸鏡が出土。

熊本県江田船山古墳から「治天下獲□□□鹵大王云々」の銘のある太刀や画文帯神獸鏡が出土。

478年 宋・昇明1

これより先、倭王興没し、弟武立つ〔宋書倭国伝〕。

5- 倭王武、使者を遣わし、宋に方物を献じ上表する。また、高句麗の無道を糾断し、中国王朝への忠節を誓い、自ら開府儀同三司を名のり、承認を求める〔宋書倭国伝〕。

宋の順帝、倭王武に、使持節都督倭・新羅・任那・加羅・秦韓・慕韓六国諸軍事安東大將軍倭王を授ける〔宋書順帝紀〕。

東海や東北・山陰地域で須恵器の生産が始まる〔愛知県東山218号窯跡・島根県高畑窯跡〕。

- 福山市松本古墳—帆立貝式古墳と推定される。竪穴式石室から鉄剣や鏡片などが出土し、墳丘から須恵器や水鳥の埴輪片が採集されている。
- 吉舎町三玉大塚古墳—全長46m、高さ7mの帆立貝式古墳。墳丘には葺石や埴輪がめぐらされ、周囲には幅約8mの溝がある。竪穴式石室から、鋸歯文鏡や筒形銅器・鉄刀・槍穂・短甲・兜・滑石製有孔円板・馬具などが出土。
- 庄原市熊野遺跡—埴形や婉形・高坏形などの土師器(IV-7・8)・ミニチュア土器などが出土。
- 三次市日光寺遺跡—壁面につくりつけのカマドをもつ方形プランの竪穴式住居跡3軒分が検出され、土師器や須恵器が出土。

庄原市鍬寄遺跡—壺形・甕形・高坏形・埴形の土師器や須恵器が出土。

479年 南齊・建元1

南齊王朝、宋朝にかわって起こる。南齊の高帝、倭王武を鎮東大將軍に進める〔南齊書東南夷伝倭国条〕。

九州地域に装飾古墳が出現し、石人・石馬が流行する〔熊本県千金甲古墳・福岡県石神山古墳・同石人山古墳〕。

古墳時代後期

500年頃

横穴式石室の普及に伴い、古墳の墳丘が縮小化をたどる。畿内地域で前方後円墳が減少しはじめる。

502年 梁・天監1

梁王朝、南齊朝にかわって起こる。

4- 梁の武帝、倭王武を征東將軍に進める〔梁書武帝紀〕。

広島市空長1号古墳—竪穴系横口式石室から蛇行鉄剣や鉄剣・三輪玉・有孔円板などが出土。

三次市緑岩古墳一周溝をもつ直径約 19.5m の円墳。人物や馬形・朝顔形・円筒形の埴輪，須恵器などが出土。

千代田町古保利 44 号古墳—竪穴式石室から挂甲や鉄鏃が，石室外から須恵器(V-8・9・10)が出土。

507 年 継体 1

大伴金村ら，越前国より男大迹王を迎える。男大迹王，河内国樟葉宮で即位し，継体天皇となる〔書紀〕。

527 年 継体 21

近江毛野臣，任那復興のため出発。筑紫国造磐井，新羅と通じて反乱。毛野臣を阻む〔書紀〕。

528 年 継体 22

大將軍物部麁鹿火，磐井を斬殺。福岡県岩戸山古墳(全長 140m の前方後円墳)が磐井の墓にあてられている。

- 豊栄町すくも塚古墳—仿製の神獸鏡や馬具・ソロバン玉・須恵器などが出土。

534 年 安閑 1・欽明 3

安芸国に過戸廬城部屯倉を設置〔書紀〕。

535 年 安閑 2・欽明 4

5- 婀娜国に胆殖・胆年部の屯倉を設置〔書紀〕。

538 年 宣化 3・欽明 7

百濟の聖明王，仏像と経論を献じる《仏教の公伝》〔元興寺縁起〕。

- 三次市勇免 4・5・6 号古墳—箱式石棺や竪穴式石室から鉄鏃や鉈・須恵器などが出土。
- 三原市宮ノ谷 4 号古墳—直径 14m の円墳で，木棺 2 基・箱式石棺 1 基から鉄鎌や玉類・須恵器(V-12・13)などが出土。

この頃から広島県域に横穴式石室が普及する。箱式石棺や竪穴式石室も引き続いてつくられる。

- 福山市山の神古墳—南に向けて開口する片袖式の横穴式石室で，羨道が狭くて短い。玄室の奥行と幅の差が少く，奥壁と側壁をドーム状に持ち送って，天井が高いところから，広島県域では最古の横穴式石室と考えられている。金銅製の馬具や金銅製の丸玉・鉄斧など多数の副葬品がある。
- 東城町犬塚 1 号古墳—狭くて短い羨道部や持ち送りの壁面をもつ古式形態の片袖式横

穴式石室を築く。鉄剣や玉類・須恵器などが出土。

555年 欽明16

吉備5郡に白猪屯倉を置かせる〔書紀〕。

- 三次市若屋9号古墳—全長22mの前方後円墳で、横穴式石室は側壁を持ち送ってドーム形をなす古式の形態。紡錘車形石製品や銀環などが出土。

562年 欽明23

任那の日本府滅ぶ〔書紀〕。

- 竹原市鏡田石棺群—箱式石棺12基と石台1基が検出されている。石台は殯(もがり)に使用されたものと推測されている。
- 福山市釜屋1号古墳—横穴式石室から、金銅製の単竜式環頭柄頭や須恵器などが出土。横穴式石室に巨大な石を用いたものが現われる。
- 福山市二子塚古墳—全長66mの前方後円墳。奥行13m・幅2.15mの両袖式の横穴式石室は、備後地域最大規模のもの。
- 福山市スベリ石古墳—円墳に奥行9.5mの片袖式横穴式石室が築造されている。
- 竹原市横大道1号古墳—奥行9.4mの片袖式横穴式石室から馬具や須恵器などが出土。

570年 欽明31

物部尾輿ら、仏像礼拝に反対し、堂舎を焼き切り、仏像・経論を難波江に流す〔上宮聖徳法王帝説〕。

571年 欽明32

欽明天皇、任那復興の詔を遺して没す〔書紀〕。

奈良県見瀬丸山古墳は奥行26.1mの全国最長の横穴式石室をもつ前方後円墳で、欽明天皇陵とも考えられる。

広島県域で須恵器が生産される。沼隈・松永・御調などの窯跡群は平安時代頃まで継続する。

- 三次市松ヶ迫矢谷1・2号窯跡—全長10m前後の半地下式の登窯で、須恵器が生産される。窯に接して半円形の作業場がつくられている。
- 世羅町青水窯跡—全長10mの地下式無段の登窯で、須恵器が生産される。
- 高宮町矢賀迫1・2号遺跡—7m前後の地下式無段の登窯。
- 飛鳥時代にかけて須恵器(VI-27・28)が生産される。
- 甲田町荒神古墳—金銅製の圭頭太刀や玉類・須恵器などが出土。

広島県北西部を中心に、横穴式石室の壁面に彩色したり、床面に礫や須恵器を割って敷く古墳が分布する。

- 八千代町土師大迫古墳—横穴式石室壁面に赤色顔料を塗布した県内唯一の彩色古墳で、玉類や須恵器(V-18)が出土。
- 八千代町桑の木古墳—床面に河原石を敷いた奥行9mの片袖式横穴式石室から、鉄刀や須恵器が出土。
- 高宮町後原1号古墳—奥行6.3m、幅1.75mの横穴式石室の床面には、須恵器大甕が割って敷きつめてある。

585年 敏達14

蘇我馬子、塔を大野丘の北に建て、大会設齋する。この時、疫病起こり、物部守屋ら仏法破却を奏上。天皇これを認める。守屋、塔・仏殿を焼き、仏像を難波江に捨てる〔書紀〕。敏達天皇没する。敏達陵は天皇陵最後の前方後円墳。この頃から天皇陵は方墳が増加する。神辺平野周辺や可部地域をはじめ、県内各地で群集墳が盛行する。

587年 用明2

用明天皇、病気のため、仏教に帰依せんことを群臣に諮る。物部守屋ら反対。天皇没する。蘇我馬子ら、守屋を滅ぼす。厩戸皇子(聖徳太子)と馬子、造寺を誓う〔書紀〕。広島県北部を中心に横穴墓が流行する。

- 日和町常定峯双横穴墓群—丘陵斜面をうがって6基の横穴墓がつくられる。玄室はアーチ形をなし、鉄刀や馬具・須恵器などが出土。

589年 崇峻2

隋王朝、中国を統一する。

- 世羅町康徳寺古墳—直径15mの円墳で、横穴式石室は奥行9.5m、幅2.45mの世羅郡内最大規模のもの。
- 本郷町梅木平古墳—全長13.1m、幅2.9m、高さ4.2mの両袖式横穴式石室は、広島県内最大規模のもの。沼田佐伯部を管理した佐伯直など有力豪族の家族墓と考えられる。

飛鳥時代

593年 推古1

1-15 飛鳥寺の塔の礎石に仏舎利を置く〔書紀〕。

596年 推古4

4-10 厩戸皇子立太子し、摂政となる〔書紀〕。

飛鳥寺竣工《日本最初の本格的な仏教寺院》。

広島県域に刳抜(くりぬき)式家形石棺を納める横穴式石室がつくられる。

家形石棺には兵庫県の竜山石とみられる流紋岩質角礫凝灰岩製のものと、花同岩製の 2 種類がある。

- 本郷町二本松古墳(南方神社石棺)一流紋岩質角礫凝灰岩製で、組合式家形石棺の屋根には 4 個の縄掛突起がある。